

立北だより



尼崎市立立花北小学校
校長 佐野 正信
令和6年 12月 2日



寒さに負けない立北の子ども

北風が冷たくなり、市の内外から学級閉鎖の情報が聞こえてくる季節、本校では、恒例の『走ろう週間』が行われました。始まって5分もすると、子どもたちの頬がみるみるピンク色に変わり、「寒～い」と背中を丸めながら出てきた子どもたちも、ぼかぼか笑顔に変わっていきます。元気でたくましい子どもたちを育む立北恒例の取組、先生たちも一緒に走っています。



長い間覆われていた工事用の黒いシートがようやく取り除かれ、塗り替えられたきれいな校舎が少しずつ姿を見せ始めました。「まっ白がいい」「水色にしてほしい」など、希望を伝えに来てくれる子どもたちもいましたが、給食棟や南棟、プールなどが前の色のまま残ることもあり、多くの卒業生たちが「立北といえばこの色」と口にする元の色に戻すことにしました。猛暑の中、子どもたちのために工事に携わってくださった方々に感謝したいと思います。



大切な命 自分で守ることができる子に！

先日、火災避難訓練を行いました。子どもたちは、担任の指導をしっかり守り、サイレンからわずか5分で運動場の真ん中へ避難、集合完了しました。もし、火災発生が休み時間だった場合には、教室に戻



るのではなく、それぞれの判断で運動場へ集まることも確認しました。自動的に閉じる仕組みの防火扉をくぐる訓練も行いました。「扉が閉まったら、いつもと全然違う所みたい」「少し狭くなっているから押し合わないようにしないと」と子どもたちはつがやいていました。これとは別に、3年生は、自転車安全教室で正しい自転車の乗り方を学びました。ひとつしかない大切な命、大人がその場になくても、子どもたちには「正しく判断して安全に行動できる力」を身につけてほしいと願います。



地域の財産 人と人とのつながり

朝、通学路を歩いていると、沢山の子どもたちが集まっていました。何だろう…と思い近づいてみると、1年生の女の子が転んで泣いているところでした。たまたま通りかかった4、5、6年生たちが声をかけ、起こしてなぐさめてくれているのです。このようなことは一度や二度ではありません。こんなこともありました。校門に立っている時のこと、「校長先生、この裏の通りで男の子が泣いてるよ」と地域の方が教えに来てくださるので探しに行くと姿がありません。すると次の方がやって来て「あっちで泣いてるよ」と。上ノ島町でも立花町でも、いつも子どもを気にかけてくださり、地域の温かなコミュニティの中で子どもたちを育ててくださっていることを強く感じています。今年も上ノ島西公園での餅つき大会が近づいてきました。ぜひご家族で参加され、行事が終わる12時からの片づけでは、ぜひお力をお貸しいただけると有り難いです。ご協力をよろしくお願いいたします。



校長 佐野 正信